



支援員養成講座4

## 発達障害と合理的配慮②

注意欠陥多動性障害(ADHD)



1



## 主な発達障害

学習障害(LD)

注意欠陥多動性障害(ADHD)

自閉症スペクトラム(ASD)



2

## ADHDについて

DSM-5(2014年)では注意欠如・多動症

ICD-11(2018年)では注意欠如多動症

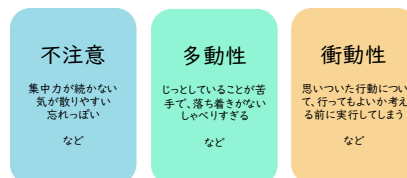
文部科学省の表記では、注意欠陥多動性障害



3

## 注意欠陥多動性障害(ADHD)

機能または発達を妨げるほどの、不注意と多動性・衝動性、またそのいずれかの持続的な様式



日本精神神経学会(監修) 医学書院 DSM-4-TR・5精神疾患の診断統計マニュアル



4

## 環境の整備

刺激になるもの、気になるものをできるだけ少なくする

余計なものを置かない

黒板のある壁にいろいろ  
な掲示物を貼らない

時計は教室の後ろの壁に

本棚などはカーテンをつけて中  
が見えないようにするなどして、  
視覚的な刺激を少なくする。

5

## 環境の整備

座席の配慮

前の席や真ん中の席  
(集中時間に合わせた働きかけを行いやすくするため、  
子どもの座席は一番前の先生の近くにする など)窓際の席は、外に目が行き、  
気が散りやすくなるので避ける。隣の席の子ども、  
班編制への配慮

6

## 環境の整備

## 板書、ノートの配慮

箇条書きで書く。

大切なキーワードだけを書く。

行の間隔を十分に空けて書く。

行の頭に印をつける。  
(○印をつけたり、星や花、動物などモチーフのカードを貼る。  
「先生が今説明しているのは○印のところだよ」、「はい、★のところを見て」など)



7

## 環境の整備

## 待つ場面

ただ我慢させるのではなく、

- ・何のために待つのか、
- ・どれくらい待つのか

のような見通しをもたせることで、不安や嫌悪感を和らげることができる

何かやることを用意する。

(砂時計を見せて、「この砂が全部下に落ちたら先生に教えて」など、短時間で終わる、単純なもの)



8

## 環境の整備

## 子どもの集中時間にあわせた課題

45分間活動に参加させたい  
→5分しか集中できない子を45分集中させようとするのではなく、15分間の集中を3つ考える

集中できる時間内にできる課題内容や分量を考える

集中時間にあわせて言葉をかける、質問するなどして、注意のリセットを行う



9

## 環境の整備

## 活動エネルギーを使わせる工夫を

授業の前の休み時間に走る、鬼ごっこをするなどの十分な運動を、先生も一緒になって遊びの形態で行う

## 動いてもよい環境を作る

・教室の後ろから物を持ってきてもらう  
・プリントをみんなに配る、黒板を消す  
・先生の手伝いをしてもらうなど、動いてもよい環境を作る。

子どもの状態が不安定なときは、用事を依頼して保健室に行かせるなどとする。



10

## ADHDと合理的配慮

「がんばりカード」を作成して活用

学習量の調整

情報提供や表現の場面でイラストを活用

「お話タイム」の時間を設定し、不安感把握と解消

国立特別支援教育総合研究所 「合理的配慮」実践事例データベース



11

## すぐにも実践可能な支援

- ・必要な物だけを机上に用意させる
- ・名前を呼んで、注意を引きつける
- ・約束事が守れたら、すぐに誉める
- ・「当たり前」のことも言葉で褒める
- ・子どもが話そうとしていることを補う
- ・教師のそばなど、座席を工夫をする
- ・守るべきルールを子どもと相談して決める

玉木宗久ら LD研究 通常の学級におけるインストラクショナル・アダプテーションの実施可能性



12